

アクションプランの目標値(定数値)の見直しについて

検討項目	目標値 (H31)	基準値 (H26)	これまでの状況	検討結果
○一次産品等を活かした 新商品の開発	15アイテム	—	(H27)25アイテム (H28)177アイテム (H29) 現時点で267アイテム	アイテム数については、市の産業振興補助金や食品加工開発等支援事業を活用して開発した商品のほか、道の駅関連で独自開発を行った商品数を計上している。これまでの累計で目標値の15アイテムはすでにクリアしているが、今後は開発した商品を定番商品へと磨き上げる取り組みも重要になってくることから、引き続き同様のペースで新商品の開発が行われるかは不明であることや、この目標値は、地方創生推進交付金の申請に併せて国に提出した地域再生計画のKPIとしても用いているため、目標値の変更は行わない。
○商談会等での商談件数	150件/年	108件/年	(H27)134件/年 (H28)377件/年	商談件数については、市の観光商工課が参加する商談会の出展枠の利用や市の産業振興補助金を活用して、独自に商談会に出展している事業者からの聞き取りにより、把握をしている。参加事業者の商談の経験や参加する商談会の規模・内容、取扱い商品に対するバイヤーの関心度など、様々な要素はあるが、H28年度の商談件数のうち、特定の2事業者で300件超の商談を実施しており、大幅な伸びは、商談に積極的な事業者によるところが大きいと見られる。今後、市の支援を活用する事業者が替われば、状況が変わってくる可能性もある。 目標値としては変更せず、今後、他の市内事業者の参加状況や商談件数を見ながら、改めて検討をする。
○道の駅「よって西土佐」 入込客数	13万人	—	(H27)— (H28)17.9万人 (H29) 16万人(見込み)	平成28年度の来客者数17.9万人は、開業初年度であることや近隣地域で開催された「奥四万十博」などの影響を割引く必要があるが、二年目となる平成29年度の来場者数は、11月の時点で昨年度同時期比87%、年間では16万人の見込みとなっている。順調な状況といえるが、今後、年数が経つにつれ、新しい施設が他所にもできたり、「よって西土佐」に初めて訪れる来客者の割合も低くなっていくため、高い数字の維持には、更なるリピーターやファンの獲得に力を入れる必要がある。計画の折り返し時期に指定管理者である「㈱西土佐ふるさと市」と協議をし、実績等を踏まえた目標値に見直しをする。
○学校給食への市内農 産物(野菜類)の供給率	中学校給食 開始後に 目標を設定	64.8%	(H27)62.4% (H28)43.3%	H28年度から中学校給食が市内全域で始まったことにより、これまで未設定だった目標値を決める必要が生じているが、平成28年度は、地元産の比率が前年度から、20%近く落ちている。 給食の献立は小中学校とも同じなので、中学校給食の実施に伴い、使用する野菜の必要量が大きく増加した一方、食材によっては、市内で供給できる量には限りがあるため、相対的に調達割合が下がったということが考えられる。平成29年度の1月末までの実績も、平成28年度とほぼ同程度の割合であることから、平成28年度の数字を基準とし、目標値は50%とする。